

戸田康之さん『手話と数』（11月15日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日は、手話と数の関係性について話をしたいと思います。

今、私はろう学校の幼稚部で働いています。

聴者の幼稚園の教育研究で著名なある女性に、来ていただくことになりました。研究などについてお話ししていただきたいとこちらからお願いしたんです。聴者の幼稚園でもそのような活動をしていてとても有名な方でした。ろう学校の幼稚部を視察してもらい、その後先生から評価してもらおうと来ていただきました。

その先生は聴者で、手話は分かりませんし、ろう学校を視察するのも初めてでした。ろう学校での遊びや生活などをいろいろ見て回った後、ろう学校の教員たちに研究について話をしてもらっている時、その先生が「ろう学校では、先生が数を口にする人が多いですね」と言ったんです。「とにかく先生が数をよく出しているけれども、子どもたちにはまだ早すぎるのではないか」と。「聴者の幼稚園では、数にはこだわっていません。先生が数を特に言うことはしていません。年齢的にもまだ小さいですし、小学校からではないでしょうか。ろう学校の先生は数を出すことが多いのではないですか？早すぎませんか？」と言われて初めてそのことに気づかされました。しかし、改めて考えてみると、聴者の子どもたちにとって数を使うのが早すぎるというのはよくわかったのですが、ろうの子どもたちにとってみればどうだろうと思うと、言語としての手話は数と密接な関係があると思うんです。

例えば椅子です。聴者の場合は、「椅子を並べなさい」という時に、特に数のことは言いませんよね。でもろう者の場合は、「椅子をこう並べなさい」と椅子を4脚並べる様子を表します。数を明確に出すんです。また、「今日、お客様が来るよ」という時も、2本の指で人が来る様子を表せば、はっきり2人ということが言えてしまいます。他に「コップをこっちに持ってきてよ」と言う時も、コップを持った両手で目の前に置く様子を表せば、そのコップは2個、ということになります。

このように、言語としての手話は、数がとても密接にかかわっていると思うんです。聴者の子どもにはあまり使わないという数も、ろうの子どもたちにとっては数との親和性が高く、それが手話なんだなと思ったので、その話を先生にしたんです。すると先生は、日本語と手話にそんな違いがあるのかと驚いていて、数とのかかわりに大きな違いがあることがとても興味深かったようで、言語の違いのおもしろさについての話になったことがありました。

手話は、数を使うことが多いですから、ろうの子どもたちは数の習得も早いのではないかなと思います。